

闇に溺れる

酒井恵三

冷たい闇の中に私は沈んでいた

ある日どこからか人の声の様なものが

聞こえてきた

誘われるままにゆつくりと立ち上がると

それまでの闇ははるか眼下に横たわっていた

人の声の様なものは尚も私に囁きかけた

私は自分の大きな足で闇の中に

足を入れようとしてみた

闇は私の足にからまり合い

まるでプールで戯れているような感じになった

腕を広げて大きく息を吸った

闇の欠片が足の指先に至るまで私の下半身を覆った

人の声の様なものはそこで止んだ

蝶が舞い下りて来て私の肩に止まった

闇に溺れていた私はそこで正気に戻った

既にそこには闇の欠片すらもなかった

闇に溺れる

（能登震災直後に見た夢に基づく）